

# 令和7年度 第1回白根巨摩中学校自己評価書（前期）

令和7年8月12日作成

校長 矢吹 和信

記述者 教頭 雨宮 文

## 学校教育目標

「思いやりの心と主体性・創造性を備えた白根巨摩中生の育成」

- ・ 学ぶ喜び・創り出す喜びを知り、主体的に学習する生徒
- ・ 正義を尊び、思いやりをもつ心豊かな生徒
- ・ 素直に見聞きし、考え、お互いを高め合う生徒
- ・ 心身ともに健康で、たくましく生きる生徒

## 重点取組

### 1 学習意欲と確かな学力の向上

- ①生徒主体の授業への転換
- ②信頼関係が保障される学級集団づくり
- ③ICTの積極的な活用
- ④家庭学習のさらなる改善

### 2 教育課程の改善と小中一貫教育に向けた取組の推進

- ①本校の特長を生かす教育課程への改善
- ②9年間を見通した教育課程の編成と改善
- ③小中間での交流の推進（職員、児童生徒）
- ④小中一貫教育に関する保護者・地域の理解の促進

### 3 生徒会活動における「4つのこだわり」と創造的な特別活動の推進

- ① 生徒会が掲げる「4つのこだわり」（挨拶、清掃、時間、服装）を生徒主体で推進・充実
- ② これまでの成果をもとにした創造的な特別活動の推進

## I 全体評価

※A:5点、B:4点、C:2点、D:1点と数値で換算し、平均4.0を目標と考えた。全20項目が4.0を上回る結果となった。（令和6年度前期も全ての項目が4.0を上回った。）得点分布に関しては以下のとおりである。4.5以上が17項目であり、4.5未満は3項目であった。

教職員アンケートでは、総合的な平均が4.7（昨年度4.6）となった。一人一人の職員の意識や実践が高い水準を保っていると評価できる。学習においては、全教職員がICTの有効活用を進め「主体的、対話的で深い学び」の実現をめざし、授業の在り方自体を見直していこうとする雰囲気が高まりつつある。また、研究テーマ「聴き合い 学び合い 互いを高め合う生徒の育成」にむけて、授業者が生徒主体の学びへと意識を変えようと努力している成果でもある。評価に関しては、3観点の資質能力でみとる学習評価の定着が進みつつあるが、観点のごとの評価の方法等については今後もさらに共通理解を図っていく必要がある。

一方で、教職員アンケートと生徒アンケートから課題として、楽しいわかりやすい授業づくりに今後、力を入れていく必要性を感じる。ICTの有効活用方法についても日常的に教職員で学び合い、個別最適な学習と協働的な学習を一体的に充実させることで、その実現を図っていきたい。また、校内研究を推進するとともに職員室の中で、日常的に授業についての会話がでるような学び合う教職員の雰囲気作りも必要である。特にICTに関しては、教科や教師個人により活用頻度に差が見られる。デジタル世代である若手はICTに長けている傾向が高く、ICTの活用経験は新たな授業実践の発想に役立つ可能性がある。一方で、授業デザインや教材理解等はベテランの実践知として若手に継承されるべき財産である。若手とベテランが互いの強みを生かし、共に成長できる関係性の構築にむけて、意図的な取り組みを校内に設計していきたい。

家庭学習については週末課題（タイアップ・チャレンジ）の取組が5年目となり、定着が図られてきた。今後は、提出や内容に個人差が見られ、二極化が進んでいるので、家庭学習における課題の質や方法についても自己調整できる力を育成していきたい。

部活動については、その意義や目的から教育的意義は深いものの、教職員への負担等、依然として課題は多い。今年度も3つの部活動で部活動支援員の支援を頂いている。今後も引き続き地域との連携を含め、部活動の在り方について協議・検討していく必要がある。

<b>II 各領域の評価</b>	
<b>1 学校運営</b>	
達成状況	<p>◇領域平均は4.8であり、学校教育目標の具現化に向けて、職員の互いの協力体制が整っているといえる。</p> <p>◇報告、連絡、相談、確認を適切に行っており、職場相互の信頼関係も良好である。</p> <p>◇校務分掌等への取組意識は高く、達成度が高いと考えられる。</p>
対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員一人ひとりが学校経営方針や重点目標を十分に理解し、これまでの成果と課題に基づいた教育活動を、生徒の実態に応じて連携しながら推進していく。</li> <li>・教育活動全体に対して組織的に取り組めるよう、細部関わっても状況等を共有し、共通理解を図りながら検討・改善を行っていく。</li> <li>・ライフワークバランスを各自が意識し、効率を考えた働き方について意識を高めるとともに、組織としての働き方改革も推進していく。また、教員のメンタルヘルスについて管理職が細心の注意を払うよう心がけ、同僚性・協働性のある職場の構築につとめる。</li> </ul>
<b>2 教科指導</b>	
達成状況	<p>◇領域平均は4.5である。深い学びの実現をめざした授業づくりとICTの有効活用に関して課題が残る。</p> <p>◇教師アンケート⑥「聴き合い 学び合い 互いを高める生徒の育成」の校内研テーマのもと深い学びの実現を目指した授業づくりに努めている」は4.3となっており、生徒アンケートの授業の領域の評価の「授業の楽しさ」「授業の分かりやすさ」の値が他の項目と比べるとやや低いので、生徒の声や実態を踏まえた生徒主体の授業づくりへの改善が必要である。</p> <p>◇教師アンケート⑦「家庭学習の定着」においては、昨年度4.3から4.5となった。「タイアップチャレンジ等」の週末課題の取組が定着し、少しずつ成果は上がっている。生徒アンケートの週末課題の取組についての肯定的回答は昨年度とほぼ同様であった。やる生徒とそうでない生徒の差も見られることを踏まえ、さらなる取組の推進が必要となる。週末課題以外の家庭学習の定着についても、今後も検討していく必要がある。</p> <p>◇教師アンケート⑧「授業でのICTの有効活用」については、昨年度とほぼ同様の結果であった。研究も進み、共通理解は図られてきているが、日常的かつより効果的な活用については今後、さらに力を入れていくことが求められている。</p>
対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師の一斉説明を生徒が聞く授業形態から、子ども主体の授業への転換を図り、確かな学力の向上を目指していけるよう、校内研究の中で研究・研修を深めていく。</li> <li>・若手はICTに長けている傾向にある。ベテランは生徒との関りや授業デザイン、教材の理解など実践知が高い。互いの強みが日々の実践の中で対話や参観によって学び合えるような意図的な取り組みを実践していく。</li> <li>・管理職による日常的な授業観察を通して、指導・助言を継続して行う。</li> <li>・オンライン等も積極的に活用し、各種研修や研究会等への参加などを促し、授業の指導方法の共有や職員の資質能力の向上が図られるようにする。</li> <li>・週末課題としての「タイアップ・チャレンジ」の意義を教職員で再度確認し合い、家庭学習の時間の確保と、習慣化について粘り強い指導を行う。また、1人1台端末を活用した家庭学習と授業とのリンクを図る。</li> </ul>

3 生徒指導について	
達成状況	<p>◇平均得点は4.8で、組織的な対応に取り組んでいるといえる。教師アンケート⑨「問題行動等の早期発見・早期対応・早期解決」の項目は、各担任・学年・生徒指導・部活動顧問等を中心に職員の共通理解のもと、学年の枠を超えて全体で指導が行われている結果とみることができる。</p> <p>◇生徒アンケート②「学校でのきまりや約束事を守る」の項目の得点は4.6であり、生徒自身がきまりや約束を守っているという自覚をもっている。</p> <p>◇校内では生徒支援会議を定期的に行き、不登校や学年で支援が必要な生徒に対して、丁寧に確認をし、情報共有している。また、定期的に悩み事アンケートを実施し、生徒の声をきめ細かく聞き、組織として迅速に、必要に応じて保護者と連携しながら対応するよう心がけた。</p> <p>◇積極的に専門機関との連携を行うことで、外部連携のもとで多角的な観点からの指導・支援につなげることができている。</p>
対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的に生徒の状況を共有しあい、様々な視点をもとに分析し、学校としてのきまりや指導重点について職員の共通理解のもと、生徒の指導にあたる。</li> <li>・SNSのトラブル等、深刻な社会問題となっている状況を踏まえながら、本校においても問題行動が起こらないための未然防止として、学年やクラス、部活動を超えて、すべての教職員が積極的に声かけを行ったり、学活や道徳、部活動や行事などのすべての教育活動を通して、規範意識の確立や心の教育の充実を図る。</li> <li>・改訂した「いじめに対する基本方針」のもと、年5回のアンケート調査と個人面談等が行われている。今後も報告・相談・記録などを丁寧に行い、必要に応じて関係機関とも連携していく。</li> <li>・生徒の連絡帳の記述や、悩みごと調査の実施やその後の面談等により、生徒が抱えている問題を正確に把握し、相談体制を整え、解決に向かうよう生徒に寄り添った指導を行う。</li> </ul>
4 特別活動	
達成状況	<p>◇平均得点は4.8である。教員のアンケート結果は⑫「生徒の自治力の向上を目指し、計画的な指導を行っている」と生徒アンケートの⑨「行事への協力」の結果から、生徒たちが仲間と協力しあい、楽しく行事に取り組んでいることが分かる。</p> <p>◇教師アンケート⑬「部活動の指導」については、一昨年度から支援をいただいている部活動支援員による指導が効果を得ていること、各部に複数顧問を配置していること、一人一人の職員が部活動の意義や目的を踏まえ、生徒の健康・安全面に注意しながら意欲を引き出し、取組過程に自信をもたせる指導をしていることが影響していると考えられる。</p> <p>◇教師アンケート⑭「合唱」については、本校の伝統として受け継がれていっている合唱活動の意義を確認しあいながら、特色のある活動として合唱活動の推進を行っている成果である。</p>
対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2学期は、生徒会年間最大行事である学園祭や合唱発表会がある。取組過程の中で、何を学ばせるのか、職員で共通理解を図りながら、生徒による自治的な活動となるよう支援・指導していく。</li> <li>・清掃については、4つのこだわりのひとつとして、生徒総会でも重点的に取り組んでいくことが確認された。生徒会本部・学年生徒会・学級役員をより効果的に機能させながら目的を確認しあい、生徒の主体的な活動としていきたい。</li> <li>・部活動においては、月に2回の割合で月曜日は放課後に部活動や会議を行わない「きずなの日」を年間通して計画的に設け、部活動なしの日とするとともに、休日の部活動年間活動日数を69日以下にするよう定めている。今後、朝練や下校時間の見直し等についての部活動の在り方については、検討課題である。</li> </ul>

5 健康安全・信頼される学校	
達成状況	<p>◇平均得点は「健康安全」、「信頼される学校」ともに4.8となっている。「校舎内外の施設設備」や「生徒の健康安全」について非常に意識が高く、環境整備や熱中症対策等をはじめ、生徒への指導をもきめ細やかに行っていることがわかる。一方で、生徒アンケートの結果から「学校には教育活動に適した施設・設備がと整っているか」が若干、低かった。生徒の声を生かした環境整備につとめたい。さらに、危険を予測する中で気づいたことは職員の中ですぐに共有し、さらなる環境整備を行っていく必要がある。</p> <p>◇熱中症対策や通学路の安全確保、自転車の乗り方を含めた下校指導等について、きめ細かい指導を行った。</p> <p>◇不審者情報や非常変災に備えて安全安心メールへの全家庭の登録をお願いしている。家庭に状況を素早く伝えたり、不安や不明な状況が無いよう努めている。今後も危機管理を強化していくことに加え、保護者にとって必要な情報を正確かつ迅速に提供するよう心がけていく。</p> <p>◇「健康安全」、「信頼される学校」の領域はすべての領域の中でも高い評価となった。全職員の意識の高さと同時に、生徒一人ひとりに対してきめ細やかな指導を行うよう心掛けていくことがわかる。</p>
対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的な安全点検等により、校舎内外の危険箇所や破損箇所への対応を行っている。今後も日常的に気づいたことを、迅速に情報共有しあい、生徒の安心安全を守れるようにしていく。さらに注意深く取り組みたい。</li> <li>・熱中症等への対策は引き続き状況に応じて臨機応変に対応し、生徒の教育活動を充実させていく。そのために正しい知識と適切な行動を職員が理解した上で、互いに連携・徹底して指導を進めていく。</li> <li>・登下校時の職員の見守り指導を定期的実施し、登下校指導を推進していく。また、部活動指導について、様々な場面を想定し安全対策を検討していく。</li> <li>・生徒への見取りをきめ細かく行い、様々な問題を未然に防いでいく。リスクの先にある重大事態（危機）を想定し、学校事故の未然防止について組織的につとめる。</li> <li>・「学級だより」「学年だより」「図書だより」「保健だより」「学校だより」等、学校からの情報発信を定期的に行うとともに、個々の生徒と担任との「やり取り帳」「悩み事・心配事調査」等を通して、生徒理解を深めていく。また、家庭との連携を密にし、生徒の健全育成に向けて一層努力していく。</li> </ul>